

## 第4章 地域別の振興方策

### 十日町中央地域

行政区(集落)数：63 / 世帯数：3,203世帯 / 人口：7,176人(高齢化率：40.94%)

令和8年2月末現在

#### 1 振興方針(基本構想)

##### 『課題を解決、この先もずっと暮らせる地域社会をつくる』

拠点施設を核として市街地に活力とにぎわいを創出し、コミュニティの活性化を図るとともに、空き地・空き家・空き店舗の活用促進により市街地の活性化を進めます。また、あらゆる世代が安心して暮らせるよう、見守りや支え合いの環境づくり、防災・防犯対策の推進など、住民生活の質の向上と力強い地域組織づくりを目指します。

#### 2 振興方策

##### (1) 市街地を「地域のハブ」にする新しいまちづくり

新たに整備された拠点施設を核に、市街地に活力と賑わいを取り戻し、街なかコミュニティの活性化を目指します。十日町四大まつりや大地の芸術祭などの観光客に市街地を探訪してもらえるよう、情報発信に努めます。

空き家(店舗)については、「空き家バンク」制度の活用や、文化活動・地場産業・サービス産業の施設として活用できるように行政や各種団体と意見交換を行いながら市街地活性化の糸口を見出します。また、空き地は緑地化や災害時のオープンスペースとして活用できるように環境整備を進めます。

##### (2) あらゆる世代が健やかに暮らせるまちづくり

南部地区振興会と東部地区振興会では、ひとり暮らしや高齢者世帯の日常生活の困りごとを支援するために「訪問型サービスB」と「高齢者・障がい者安心サービス事業」を実施しています。

今後、本格的な高齢化社会を迎え、自治組織及び地域での見守りや支え合いの環境づくりが不可欠です。各地区振興会や地域住民を対象に事業概要の説明会を行い、連合会全体の事業として実施できるように取り組みます。

##### (3) みんなでつくる我が家の防災・地域の防災

近年、多発する大規模災害から「地域の安全は地域で守る」ことが自主防災組織の責任であり役割です。度重なる大自然の脅威から自分自身と家族を守るためには、平常時から防災訓練などを通じて災害に備えることが必要です。自主防災組織の重要性を改めて認識し、全地区振興会での「地区防災計画」の作成を推進します。

また、児童生徒を交通事故や犯罪被害から守るとともに、巧妙化する特殊詐欺に遭わないために関係機関と連携し啓発活動を行い、災害に強く、安全・安心に暮らせる地域社会の実現を目指します。

# 高山地域

行政区(集落)数：14 / 世帯数：796世帯 / 人口：1,823人(高齢化率：36.81%)

令和8年2月末現在

## 1 振興方針（基本構想）

### 『安全で安心して暮らせる<sup>たかやま</sup>郷土、豊かな心を地域で育む<sup>たかやま</sup>郷土』

地域コミュニティの機能をさらに強化し、幼児から高齢者まで各世代を超えた地域住民や関係団体との交流・連携を推進します。また、交通安全対策の向上と防災組織の体制強化を図り、居住環境の向上、防災・安全意識の高揚を目指します。

## 2 振興方策

### (1) 都市サービス拠点が集積する優位性の活用

地域中核病院が隣接し、地域内には保育所や高校、郊外型大型商業施設が集積するなど、他地域にはない賑わいが創出されています。この地域の優位性を内外に発信し、空き家の活用や移住の促進を通じて、賑わいの創出を図ります。

### (2) 地域コミュニティの活性化による地域力向上

高山コミュニティセンターを拠点に各世代間の交流を図るとともに、つながりをつくる活動を促進するため、様々な地域活動を展開します。また、四季折々に開催される行事を通じて、住民の誰もが参加でき、年代を超えて交流できる地域づくりを進めます。

### (3) 防災体制と交通安全対策の強化

地域住民の防災意識の向上と防災組織の体制強化を進め、災害時における高齢者世帯や障がい者など災害弱者への支援体制を整えるとともに、有事における迅速な対応を図ります。また、地域内の交通量が増加しているため、事故発生危険か所の点検や交通安全対策の向上を目指します。

### (4) 地域ぐるみの健康づくりの促進

高齢化が急速に進む地域住民の健康づくりのため、関係機関と連携し健康増進の様々な事業を展開し、健康で生き生きと暮らし続けることができる地域づくりを目指します。

# 十日町西部地域

行政区(集落)数：16 / 世帯数：1,196世帯 / 人口：2,847人(高齢化率：31.19%)

令和8年2月末現在

## 1 振興方針（基本構想）

### 『安全・安心で住み継がれる地域づくり』

ほくほく線十日町駅の玄関口としての情報発信拠点の役割を強化するとともに、地域コミュニティの一層の向上を図ります。また、地域住民の利便性を図るためアクセス道路の整備や交通安全・防犯設備の充実など、安全・安心への取り組みを継続し、災害に強く、安心して快適に住み続けられる地域の実現を目指します。

## 2 振興方策

### (1) 魅力ある市街地の「持続的発展と再生」

地域の良好な居住環境の維持・向上を図るとともに、魅力ある都市景観の形成やバリアフリー化を推進します。また、文教・医療・スポーツ施設など環境に恵まれた優位性を生かし、定住・交流人口の増加を図り、地域資源を活用した賑わいと魅力あふれる地域を目指します。

### (2) 都市機能の優位性活用と交通ネットワークの強化

文教施設や地域中核病院、十日町駅西口へのスムーズな連絡を確保するとともに、地域内連携を強化する市道本町西線の整備により、更なる地域の賑わいの創出と周辺地域全体の発展を図ります。さらに、生活道路における除雪体制の強化や、雪対策を通じた冬季の安全を確保し、年間を通じた快適な生活環境の維持を目指します。

### (3) 元気な高齢者を増やす健康づくりの推進

高齢者が「生涯現役」として活動できるよう、運動教室やいきいきサロンなどの交流の場を拡充します。また、充実した医療環境の優位性を生かし、全住民の健康寿命延伸に向けた保健事業や健康づくり事業を積極的に推進します。

### (4) 地域コミュニティの活性化

新しい住民の増加で賑わいが生まれる一方で、若年層の地域コミュニティへの参画意識の低下が大きな課題となっていることから、地域課題の解決につながる活動や各種イベントへの参加を通じ、住民の地域意識の向上を図ります。また、活動の主体となる青年団体等の育成・支援を強化し、活動拠点の整備と一体的に進めることで、地域コミュニティの持続的な活性化と基盤強化を目指します。

### (5) 防犯・防災体制の確立

事故や犯罪の防止、そして災害から命を守るため、警察や医療機関、学校など関係機関との連携と情報共有を強化します。また、自主防災組織を中心に地域住民の協力体制を強化し、「地区防災計画」の策定と継続的な運用を進め、その実効性を確保します。さらに、防犯カメラの設置や交通安全施設の整備促進、避難所機能の充実、実践的な避難訓練の実施など、ハード・ソフトの両面から安全体制を整え、こどもからお年寄りまで誰もが安全・安心に暮らせる地域社会を確立します。

# 十日町南地域（川治・六箇）

行政区（集落）数：46 / 世帯数：2,242世帯 / 人口：5,356人（高齢化率：39.08%）

令和8年2月末現在

## 1 振興方針（基本構想）

### 『“南”の和・輪 示そう元気・活力・地域力！』

十日町道路による地域内外とのアクセス性の向上や十日町警察署の移転など、交通体系の大きな変化を見据えた地域づくりを推進します。また、里山の観光資源を生かした誘客の推進と都市機能の充実を図り、住民同士の交流・コミュニティの向上などを進めます。

## 2 振興方策

### (1) 道路交通網の整備による地域の活性化

上越魚沼地域振興快速道路をはじめとした広域交通の結節点の特性を生かし、地域内道路の環境整備を推進し、地域内外とのアクセス性を向上させることにより、工業団地の更なる発展と地域の活性化を図ります。

### (2) 新たな地域コミュニティの確立

中高年齢層のみの世帯が多く、今後地域の活動が困難になることが危惧されるため、新たな枠組みのもとで若年層の参画や世代を超えた交流が図られるよう各種活動を実施し、組織の活性化と体制強化を図ります。

### (3) 安心して暮らせる地域づくりの構築

国道117号の歩道整備や川治地区の流雪溝整備を促進するとともに、空き家対策の推進、事故や犯罪・災害に対応できるよう地域住民の連携を強化し、行政と一体となって安心して暮らせる地域づくりを引き続き進めます。

### (4) 多彩な観光資源を活用した交流の促進

あじさい公園や二千年蓮、魚沼スカイライン等の魅力ある地域資源と地域内で催される多彩なイベントを連携させ、交流促進と活力ある地域づくりを図ります。

### (5) 地域農業の育成

中心市街地の周辺に農地が確保され、水稻のほか野菜や山菜、ソバなど豊富な農産物を生産しており、これらの産品を生かした特産物の開発により、地域農業の振興に引き続き努めます。

## 中条飛渡地域

行政区(集落)数：31 / 世帯数：1,306世帯 / 人口：3,362人(高齢化率：40.81%)

令和8年2月末現在

### 1 振興方針(基本構想)

#### 『自然に親しみ歴史に学び～みんなでつくろう夢のある郷土』

国宝「火焰型土器」の出土地である笹山遺跡において、新たな拠点施設を中心とした地域活動やイベントなど、地域内外との交流による地域活性化を図るとともに、里山の魅力をあわせて発信します。

### 2 振興方策

#### (1) 笹山縄文広場の整備計画に伴う地域活性化

令和8年度から開始される笹山縄文広場の整備工事に伴い、世界に向けた情報発信を強化するとともに、地元住民が将来にわたって様々な活動に携われるよう、講演会やセミナーを開催し、研修の機会を創出します。

#### (2) 笹山縄文広場周辺の各種施設の活用と将来への継承活動

笹山縄文広場の周辺に広がる大井田城跡などの歴史的遺産や、陸上競技場・笹山野球場・桂公園こどもランドなどの各種施設を積極的に活用し、その魅力を発信します。また、次世代層に対して、活用の継続に向けた育成を行い、将来に受け継ぐ活動を促進します。

#### (3) 地域コミュニティの活性化と安全で快適な環境づくりの取組

中条地区と飛渡地区が1つの地域としてまとめ、関係団体と連携することで、地域コミュニティの一体感を醸成します。また、安全で快適な生活を守るため、道路や歩道の整備、災害時における備えの強化など都市基盤の整備を進め、こどもや高齢者に優しい環境づくりを推進します。

#### (4) 里山の魅力発信と基幹産業拡大の促進

飛渡地区においては、棚田などの魅力を最大限に生かし、PRを強化して都会からの移住者を増やす取組を一層進めながら、地域の活性化を図ります。また、基幹産業である農業、特に稲作に力を入れ、生産組織などと協力しながら全国へ向けた米の販路拡大を図り、より豊かな地域づくりに取り組みます。

# 大井田地域

行政区(集落)数：14 / 世帯数：1,069世帯 / 人口：2,521人(高齢化率：36.97%)

令和8年2月末現在

## 1 振興方針(基本構想)

### 『歴史と文化にふれあい安心して住み続けられる大井田地域をめざして』

居住環境などの基盤整備や防災対策の充実を図るとともに、大井田コミュニティセンターを拠点に住民の活動・交流・親睦を推進し、神宮寺周辺の魅力を向上します。

## 2 振興方策

### (1) 大井田の文化と行事の承継

大井田の成り立ちや歴史、現在を学び、知り、語る事業を継続するとともに、文化や各地区の行事の保存・承継に努めます。また、弛まぬ努力や協力、活動により不足を補い、困難を克服し、「大井田はいいところだね」と言い合える地域づくりを進めます。

### (2) 地域活動の活性化とコミュニティセンターの整備・機能の充実

地域の住民や団体が既存の活動を続けることや、新たな活動にも取り組める地域づくりを進めるとともに、それらの活動の拠点となる大井田コミュニティセンターの整備と機能充実に努めます。

### (3) 安全な暮らしやすい地域づくり

子どもから高齢者まですべての住民にとって安全で暮らしやすい地域になるよう、生活道路の整備やきめ細やかな交通安全対策を促進するとともに、日常生活や活動で生じる障害を解消し、地域・町内で互いに支え合い、協力し合う体制づくりを進めます。

### (4) 防災の体制強化と関連施設の整備

地域住民の防災安全意識を啓発し、防災体制の充実を図るとともに、指定避難所である大井田コミュニティセンターを含む旧大井田小学校跡地を活用した防災関連施設の整備を目指します。

### (5) 大井田の郷公園の保全、整備

観音堂(本堂)と山門が県指定文化財である神宮寺に隣接し、地域住民や他地域の人々の憩いの場となっている大井田の郷公園の保全と整備に取り組みます。

### (6) 大井田地域の魅力を発信

平坦な地形でハザードマップ上に土砂災害危険区域がない安全な地域であること、中心市街地に隣接し、憩いの場である大井田の郷公園や県指定文化財の神宮寺があることなどの魅力を発信し、活気ある地域づくりを進めます。

# 吉田地域

行政区(集落)数：17 / 世帯数：792世帯 / 人口：2,042人(高齢化率：46.28%)

令和8年2月末現在

## 1 振興方針（基本構想）

### 『心を合わせ 吉田地域の未来を一步ずつ』

吉田の名の通り「田んぼが吉」となるように一層の農業振興を図るとともに、十日町道路十日町西 I C（仮称）の整備を想定した地域づくりに努めます。また、文化芸術分野や教育分野なども推進しながら、一人ひとりが地域の未来に関わることを大切にします。

## 2 振興方策

### (1) クロスカントリースキーコースを活用した地域の活性化

吉田クロスカントリースキーコースを活用し、各種競技会や合宿を地域ぐるみで受け入れることにより、地域の情報発信と交流人口の増加につなげ、地域の活性化を図ります。

### (2) 地域資源の積極的なPRと活用

クロスカントリースキーコースのオフシーズンの利活用をはじめ、美術館や文化財などの自然・文化資源を積極的にPRするとともに、十日町道路十日町西 I C（仮称）の誘致を進め、来訪者が地域内の周遊を楽しめるような有機的なつながりを持たせていきます。また、大地の芸術祭や地域資源の活用により、交流人口から関係人口への転換を促し、地域の魅力向上に向けた取組を進めます。

### (3) 学びとともに育むシビックプライドの醸成

「吉田教育ビジョン」を基軸に、学校教育のみならず、人生100年時代に大人も学び続ける生涯学習を推進します。また、地域が誇る豊かな自然環境を生かした地域振興策を展開し、魅力ある地域づくりを目指します。

### (4) 多様な地場特産物の開発

地域来訪者をはじめ、地域内外にPRできる新しい地場特産物の開発に取り組みます。また、6次産業化による起業などを促し若者の定着を進めるとともに、地場特産物とコシヒカリをあわせた食による産業振興を進め、住民がいつまでも夢と生きがいを持ち続けられるよう、地域の活力向上を図ります。

### (5) 安心して暮らせる地域づくり

医療機関の通院や福祉施設への通所のため、冬期の交通の利便性を確保するとともに、歩行者の安全のために流雪溝や歩道の整備促進に取り組みます。また、高いコミュニティ意識を生かして、地域と行政が一体となった体力づくり運動や、健康づくりのほか、災害時の備えや体制づくりなどを進め、こどもからお年寄りまで安心して暮らせる地域づくりに取り組みます。

# 下条地域

行政区(集落)数：27 / 世帯数：1,102世帯 / 人口：2,737人(高齢化率：44.76%)

令和8年2月末現在

## 1 振興方針（基本構想）

### 『豊かな自然、確かな絆、明日に向かうふるさと下条』

こどもから高齢者までの充実した福祉対策や地域防災体制の強化、住民のニーズに応じた拠点施設の活用を図ります。また、野首遺跡や新保広大寺節など歴史・伝統文化の保存・継承、大地の芸術祭や雪まつり等を通じた交流活動など多様な取組を積極的に展開します。

## 2 振興方策

### (1) 共生社会実現に向けた地域づくりの推進

福祉や医療に加えて子育ての環境整備を進め、共生社会実現に向けた地域づくりを目指します。

### (2) 多様な地域資源や人材の活用による将来を担う人づくり

新保広大寺節などの地域伝統文化や野首遺跡群の歴史的価値を未来に伝承するための継承活動を支援するとともに、こども園・小中学校と連携して将来を担う人材の育成に努めます。

### (3) 交流促進による地域の活性化

地域活動として30年以上にわたり継続している都市交流グループの実績を生かしながら、地域の情報発信と賑わい創出を図ります。また、自然の豊かさを生かした新たな魅力を発掘・発信し、大地の芸術祭などで訪れる来訪者との地域交流を一段と深めます。

### (4) 新たな地域コミュニティ拠点の創造

利雪親雪総合センターのリニューアルを契機に、公民館利用と併せた地域の拠点となるコミュニティ活動の相互利用を促進し、住民が活動に応じて拠点を選べる環境整備を推進します。

### (5) 原子力災害を想定した防災体制の強化

近年多発する自然災害に備え、地域内の自主防災組織と連携し、平常時及び非常時の体制を一層強化するとともに、原子力災害発生時の避難準備区域（UPZ）に指定されている地域としての体制強化を図ります。

# 水沢地域

行政区(集落)数：43 / 世帯数：1,752世帯 / 人口：4,422人(高齢化率：41.02%)

令和8年2月末現在

## 1 振興方針（基本構想）

### 『明るい未来を！安心安全、元気で豊かな水沢を造ろう！』

十日町道路十日町IC（仮称）周辺の整備や大規模営農の活性化とともに、若者も参加できる地域コミュニティの場の創出を図ります。水沢地区市民センターや数多くの地域資源を活用します。

## 2 振興方策

### (1) 滞在・体験型の交流による地域活性化

当間高原リゾート、上越国際スキー場当間ゲレンデ、十日町カントリークラブなど自然を生かしたリゾート・レジャー施設に加えて、つつじ原、黒沢観光栗園などの体験型観光施設を積極的に活用し、交流人口の拡大を図ります。また、地域の住民や各種団体が施設の運営に関わることで、地域一体となった活性化に取り組みます。

### (2) 上越魚沼地域振興快速道路のインターチェンジと周辺整備

上越魚沼地域振興快速道路のインターチェンジ周辺整備については、中心市街地や南魚沼市、信濃川西側との広域的市場性や地域住民の利便性・大規模営農を考慮しながら、地域住民との協働による土地利用を進めます。併せて、幹線市道との接続により一層の地域振興を図ります。

### (3) 市民センターを活用した地域の活性化

地域内の住民組織や各種団体と連携し、各種イベントの開催や大地の芸術祭作家のショップ開設、農産物販売、休憩スペースやエレベーターの設置など、新たな利活用・コミュニティの場の創出を目的とした市民センターの改修・改築を検討します。これにより、調理実習や農産物加工、新商品の開発など多用途の活用を通じて地域活動の拠点となる交流施設として利用者を増やし、若年層の活動参加を促すとともに、地域住民のコミュニティ意識の醸成を図ります。

### (4) 農産物を生かした地域の活性化

大規模営農や整備された広域農道を活用し、農業特産物の生産拡大や加工・商品開発を行うとともに、インターチェンジの道の駅での販路開拓を目的に、農産物の選定や作付けに向けた試験栽培に取り組めます。併せて、雇用の創出と若者が就農しやすい営農形態の創出に積極的に取り組みます。

### (5) 防犯・防災のまちづくりの推進

将来の道路整備による交通量の増加や交流促進による人の流れの変化を見据えて、安心・安全に暮らせる地域づくりが必要なことから、住民と関係団体が協力して地域の防犯・防災・交通安全対策を推進します。

### (6) 健康増進・介護予防対策の向上

山間地における地域公共交通の確保を図るとともに、地区市民センターと連携して地域内交流の場を拡大し、健康増進・介護予防対策事業の実施など、住民サービスの向上を図ります。

# 川西地域

行政区(集落)数：49 / 世帯数：2,135世帯 / 人口：5,286人(高齢化率：44.72%)

令和8年2月末現在

## 1 振興方針(基本構想)

### 『住んでしあわせ 来てしあわせ 笑顔で暮らせるふるさと川西』

環境負荷軽減や農地集積、後継者育成に取り組み先進的な農業地域を目指すとともに、千手温泉や道の駅を核に高齢者や障がい者支援を進め、安全で安心な暮らしやすい地域づくりを推進します。また、ナカゴグリーンパークや節黒城跡周辺の再整備により文化観光の拠点形成を図り、歴史・文化を体感できる地域を目指します。

## 2 振興方策

### (1) 環境に優しい資源の活用と地域農業を支える取組の推進

基幹産業である農業の持続的発展のため、雪及び初穀(堆肥化や燻炭化など)を活用した環境保全型農業を推進し、農産物のブランド強化や高付加価値化を進め、地域の特産品開発や普及、販売体制の強化を目指します。また、学校給食での地場農産物の利用による消費拡大や食育の推進を図ります。

### (2) 安全・安心な生活環境整備と災害に備えた防災拠点の整備

豊かな自然環境と共生しながら、一年を通して安心して暮らせる生活環境の整備、交通安全・防犯対策及び住民の健康づくりを支援する医療・福祉の充実に取り組みます。また、激甚化する災害に備え、安全に避難できる施設を確保するため川西総合体育館の防災拠点化を図ります。

### (3) 地域の魅力を生かした地域間交流と文化観光の推進

信濃川左岸の眺望が広がる田園空間を活用し、雪や山菜、田んぼや四季折々の美しさを誇る自然豊かな環境を地域の魅力として発信するとともに、田舎体験などの民泊による「都市との交流事業」や空き家、遊休地等の活用を推進しながら、交流・定住人口の増加を図ります。

また、ナカゴグリーンパーク及び節黒城跡周辺の再整備を行い、自然に触れ合いながら歴史文化を体感できる文化観光の新拠点づくりを進めます。

### (4) 地域を担う人材育成

自治組織の運営や地域の伝統ある祭事を守り伝える担い手を確保するため、地域コミュニティの活性化や若年層の意識高揚を促すとともに、地域内の団体活動を連携する仕組みづくりや移住希望者の受け入れを積極的に進めます。

### (5) 地域支え合いの推進と高齢者等支援事業の取組

NPO法人やボランティア団体を中心に地域支え合い組織への支援と連携を図り、地域に密着した健康づくりや子育て支援、障がい者支援などを推進します。そのため、千手温泉やひだまりプールを活用した健康増進事業、各地区コミュニティセンターなどを拠点とした高齢者生きがい事業に取り組み、運転免許返納者に対する交通支援事業など高齢者支援事業の拡大を図ります。

## (6) 少子化に対応した地域内小学校の再編

川西地域における小学校については、今後児童数が大幅に減少することが予想されるため、将来に向けて複式学級の解消と、学校が持つ機能と役割を充実させることが重要になることから、小学校の再編に向け環境整備や条件整備に取り組みます。

## (7) 施設の長寿命化の促進

川西地域の主要施設である「千手温泉」、「ひだまりプール」、「仙田体験交流館」、「光の館」、「川西有機センター」及び「川西総合緑地公園」などは、建設から20年以上経過していることから施設の機能に不具合が生じています。いずれも地域の諸政策の拠点施設となるため、計画的な設備の更新とメンテナンスを実施し、施設の長寿命化を進めます。

# 中里地域

行政区(集落)数：42 / 世帯数：1,718世帯 / 人口：4,284人(高齢化率：43.93%)

令和8年2月末現在

## 1 振興方針（基本構想）

### 『守ろう豊かな自然。育てようふれあいの中里』

地域の中心であるユーモール周辺の土地利用を再検証するとともに、清田山キャンプ場などのアウトドア施設をはじめとした地域資源の磨き上げを進めます。清津峡や小松原湿原などの雄大な自然環境を守りながら、雪や自然がもたらす地域特有の価値を創造することで、農業と観光資源を生かした観光業を通じた地域経済の活性化を目指します。

## 2 振興方策

### (1) 自然環境の保全と観光資源の有効活用

中里地域は、上信越国立公園や日本有数の河岸段丘を望める、美しい自然景観を保有します。国指定の名勝七ツ釜は自然環境の保全、魅力や利便性の向上を図ります。清津峡渓谷トンネルは、駐車場の拡張など受入態勢の整備を進め、更なる集客増加を目指します。また、清津川フレッシュパークの再整備や清田山キャンプ場のアクティビティを充実するとともに、複数ある温泉施設との連携を図り、豊かな自然環境の中で楽しめる滞在型観光を推進します。

### (2) 地域コミュニティ活動の推進と安全安心のまちづくり

まちづくり協議会を中心に、地域支援員や地域おこし協力隊を活用した地域活性化を推進します。地域行事の見直しや地域間交流を促進し、豪雪地で営む生活文化の継承に努めるとともに、世代間交流を推進し、老若男女が生き生きと暮らせる地域づくりを目指します。また、中里アリーナを防災拠点とし、災害に備えた防災体制の整備に努めます。各地域の自主防災組織との連携を図り、安全・安心な地域を目指します。

### (3) 地域特性を生かした高付加価値化と次世代へつなぐ農業の推進

清津川をはじめ、豊かな水資源や雪を最大限利用した米・野菜などの地域ブランド化を図り、高付加価値化した農産物を販売する独自の流通システムの構築に努めます。また、移住者や若手農業者などの新たな経営体による農地の集積化・法人化を促進し、担い手の確保や農業経営の安定化を図ります。

### (4) 中里中心部の活性化へのチャレンジ

中里地域の主要施設である複合商用施設「ユーモール」は、開業から30年以上経過し、老朽化した施設設備の更新や安定した施設経営に向けた見直しが必要です。2つの国道が交差する交通アクセスの好条件を生かし、中里中心部ににぎわい創出と清津峡からの観光誘客による活性化を図るため、ユーモール周辺土地利用の検討にチャレンジします。

### (5) 都市との交流人口増加と人材育成機会の創出

越後妻有田舎体験や友好姉妹都市である埼玉県新座市との交流など、四季を通じた都市との交流に取り組むとともに、民泊受入家庭の確保に努めます。雪原カーニバルなどのイベントは、運営体制を再構築し積極的な情報発信に努め、交流人口の増加を図ります。また、豊かな自然環境やプラネタリウムなど、中里特有の自然や施設を活用した生涯学習や教育機会を創出し、次世代を担う人材育成を図ります。

### (6) 関東圏と長野県北部を結ぶ交通アクセスの強化

国道353号と117号は関東圏と長野県北部を結ぶ重要路線として位置づけられています。広域的な連携を図り、交通ネットワークを生かした周遊観光を推進します。また、十二峠は雪崩や豪雨災害による危険リスクが高い状況にあることから、今後も土砂災害等のさらなる防止対策とともに、新十二峠トンネル開削の事業化への実現を目指します。

# 松代地域

行政区(集落)数：36 / 世帯数：1,144世帯 / 人口：2,446人(高齢化率：51.27%)

令和8年2月末現在

## 1 振興方針(基本構想)

### 『住み続けたいまち やすらぎの里まつだい』

棚田の景観やアート資源を活用した観光振興に取り組むとともに、通い農や二地域居住を促進して関係人口を増加させ、多様な人材の受け入れや活躍の場の創出を通じて地域経済の活性化を図り、地域住民が安心して快適に住み続けられる地域を目指します。

## 2 振興方策

### (1) 高齢者が住みやすい地域づくり

活力ある誰もが住み続けたい地域づくりを進めるために、地域おこし協力隊や地域支援員とともに各集落や地域団体と連携した取組を行います。

高齢者が住みやすい地域づくりを進めるために、地域支援員の計画に基づいて高齢者の移動・買い物難民等の生活支援対策を行います。

### (2) 冬期間・災害時等の生活支援に対する組織づくり

冬期間でも円滑に生活できるように集落安心づくり事業の充実を図ります。豪雪や大地震、集中豪雨などの災害発生時に円滑に避難や救助活動が行えるよう、行政と地域の役割分担と連携を明確にします。安全安心な生活環境が整備された住み続けられる地域を作るために、各集落の自主防災組織の活動と備えを推進します。

### (3) 農業の担い手不足に対する棚田の魅力を生かした取組

担い手不足が加速する農業を維持するため、交流人口の拡大や移住者受け入れを推進します。そのために、「つなぐ棚田遺産連携協議会」を中心とした棚田保全活動に取り組む人材を育成します。また、新たな担い手を呼び込むために棚田の魅力を生かした棚田米の高付加価値化や販路拡大を推進します。

### (4) 地域資源を生かした交流人口の拡大

多様な来訪者を呼び込むために地域の交流施設であるまつだい芝峠温泉「雲海」「松代棚田ハウス」蒲生の「棚田ステーション」などの利用拡大を図ります。

地域の魅力を高め交流人口の拡大を図るために、「まつだい農舞台」「大地の芸術祭作品群」「星峠、儀明、蒲生などの棚田遺産」「竹所集落の古民家再生」などの情報発信を行います。

### (5) 都市交流による関係人口の拡大

世田谷区、早稲田大学や東京松代会などとの長年にわたる交流が続いています。また、都会の小中学校生が田舎体験で訪れる越後妻有田舎体験事業も民泊や様々な体験プログラムが人気となり定着しています。近年は棚田の保全活動や通い農、トレイルランレースなどのイベントボランティア活動による二地域居住者も増えてきており、これまで積み重ねた交流を継続しながら関係人口の拡大に努めます。

# 松之山地域

行政区(集落)数:35 / 世帯数:730世帯 / 人口:1,501人(高齢化率:57.10%)

令和8年2月末現在

## 1 振興方針(基本構想)

### 『豊かな自然の中で、いきいき・のびのび 松之山』

次世代を担う人材を確保するために、雪里の暮らしを体験する移住・定住ツアーや、地域おこし協力隊の定住促進に取り組み、安心して暮らせる地域づくりを進めます。

## 2 振興方策

### (1) 中山間地で稼げる農業の確立

農家数が年々減少する中、地区を超えて耕作を引き継ぐ若手農業者が増加しています。安定した経営基盤を構築し、棚田農業を将来にわたって継続できる体制づくりに取り組みます。

### (2) 松之山温泉を核とした魅力ある観光地づくり

日本屈指の温泉を、リニューアルが進む温泉街で堪能しつつ、松之山の歴史や文化、豊かな自然を体験・学習できるプログラムの充実を図り、何度でも訪れたい魅力ある観光地を目指します。

### (3) 豊かな自然の中で育む、いきいきとした教育の推進

自然体験ステージを活用した特色ある教育に取り組む小中一貫校まつのやま学園を広く紹介し、学園への転入生と雪里留学生の増員を積極的に推進します。

### (4) 移住者・関係人口の増進とコミュニティづくり

人口減少による人材不足はあらゆる面で深刻な状況になっています。移住者や関係人口の増加を図るため、空き家を活用した人材受け入れ体制をさらに拡張し、若い世代や移住者が描く新鮮で魅力あるコミュニティ空間の実現に取り組みます。

### (5) 高齢者がのびのびと住み続けられる地域づくり

高齢者の地域内交流の活性化を図るとともに、勤労意欲のある高齢者の知恵や経験を活用し、次の世代に繋ぐ環境づくりを推進します。また、集落安心づくり事業などを活用し、地域と一体となって見守り、支え合う体制づくりを進めます。